

令和5年度 かほく市立金津小学校 学校評価最終報告書

経営目標	取組内容	担当	(前期達成状況) 現状	評価の観点	達成度判断基準	備考	取組状況	達成度(判定)	次年度の方向性 (改善計画等)	学校関係者評価者(学校運営協議会委員)による意見
1 学力の向上	「ねらいを達成する授業後半の深い学びの充実」に向け、授業改善を図る。	学習指導(釜井)	(A:90%以上) ・児童同士の意見が繋がったり、新たな考えを引き出したことができた。しかし、教師主導となることがあり、出場を見極めることが大切である。また、最後に児童が「分かった」「できた」で終わっているかを見取りをしっかりとしていく必要がある。	【努力指標】 学びが深まる深めの発問や活動を取り入れている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	・週末で深めの発問ができた時間にマーカーをつけ、毎週ふり返るようにしている。また、授業後半に時間を多くとるように、タイムマネジメントを意識した授業や発問の精選をしている。	1+2 100%	A	・教師主導ではなく、児童主体の授業を目指して学習方法を個人で選択できるようにしていく。ねらいが達成できるように、深めの発問を精選し、どうだったか検証できるようにしていきたい。 ・今年度から始まった複式学級であるが、児童は自分たちで学習を進める意識が高く、主体的、協働的に学習に取り組んでいる。R6年度は、3・4年の複式学級になる予定である。 ・2・3年生や4年生がGTを招いて性教育講座を行っていたが、5年生の理科の学習にもつながっている。学年、教科等の系統性をカリキュラムに位置付けることでより効果的な学習につながる。
	こまめな机間指導による個別指導、帯タイムの効果的な活用、1人1台端末を活用した個別最適な学習等により、個に応じた学力の向上をめざす。	学習指導(釜井)	(C:90点以上4学級) ・漢字のもつ意味理解が不十分であるため、効果的な練習を行う必要がある。計算においては、直しを大切に、理解の定着を図るようにする。	【成果指標】 個に応じた取り組み方を行い、基礎的な計算力や漢字の読み書きの力がついている。	学期末漢字・計算テストの平均点が A:すべての学級が90点以上 B:5学級が90点以上 C:4学級が90点以上 D:90点以上が4学級未満	Cの場合、基礎学方向上への取組方について見直しをする。	・前期同様、解き直しを重視して、着実な理解を目指した。また、個人に応じた達成目標にしたり、練習方法を工夫したりして、意欲を高めるようにした。	90点以上 5学級	B	・今後も効果的な練習方法の継続や解き直しをして理解の定着を図る取り組みを行っていく。児童に達成感をもたせるような工夫をしていきたい。
	学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	学習指導(釜井)	(A:90%以上) ・あさはよしのレベルを明確化し、自分たちの高まりが児童自身に意識できるような手立てが必要である。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	「返事や反応を意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	・2学期からは、毎月の反応を中心とした学習目標を掲げて、全校で取り組んだ。また、11月の相互参観中では、クラスに合ったためを設定して取り組むことで、学習規律の定着を図ることができた。	1+2 98.3%	A	・自分たちのクラスで不十分なところをめあてに設定することで、意識化を図ることができたため、次年度も継続して行っていく。
	カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成する。	教務(瀧田)	(A:90%以上) ・付けたい力「課題を見出し、計画を立て、解決する力」に合わせて、低・中・高学年の具体的な目標を設定する。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	・前期をふり返って、児童と教師の間に評価について不一致点があると分かってきた。付けたい力の3つのポイントを単元初めに児童に知らせたり、児童と一緒に作ったりしながら教師も児童も評価ポイントを意識しながら活動していくことにした。	1+2 100%	A	・3学期の実践も通して児童と教師の評価の不一致が一致するようになってきたかを引き続き見ていきたい。
	1人1台端末を活用した効果的な学習に努める。	GIGA推進(山口智)	(A:年間7回以上→予定通り) ・ICTの効率的で効果的な活用場面や活用方法について実践を通して学ぶ必要がある。	【努力指標】 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	・月に1回程度、各クラスで実践発表を行い、効果的な活用方法について共有している。	1 100%	A	・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していきたい。
			(A:90%以上) ・児童は抵抗なく活用できている。今後も積極的な活用を促していきたい。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	・教員が積極的に活用を促すことで、全児童抵抗なく、楽しく学習に活用している。高学年を中心に文房具のように、手早く、効果的に活用している。	1+2 100%	A	・今後も楽しく活用できるように、全教員で活用の推進をしていきたい。

2	生徒指導の推進	ア	「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (山口那)	(A: 90%以上) ・集会や放送で、ふりかえりを発表する取り組みを継続し、互いに認め合ったり、自分を見つめなおしたりできるようにする。学級ごとのめあてを具体的に決めているよさを広め、継続する。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	・月初めに各クラスで取り組み目標を決め、翌月の給食時間にオンラインでふりかえりを発表している。児童が自分たちの状態に合わせて取り組み目標を決めていることから、実態に応じた目標を設定できており、取り組みやすかったようだ。	1+2 92%	A	・生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣の一部のようになっていてほしいので、継続していく。	・令和6年度から不登校児童、不登校傾向の児童の校内の居場所として「ホトルーム(仮)」を設置することであるが、地域の人にボランティアを募り利用する児童の見守りができれば、先生方の負担が減るのではないかと。	
			生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にすることを育成する。	生徒指導 (佐竹)	(B: 80%以上) ・カードのチェック項目の起床時間やメディア時間について、時刻や時間を児童と確かめながら、よい生活習慣となる目安を意識できるようにしていく。	【成果指標】 セルフチェックを通して、自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	セルフチェックカードの肯定的な評価をする児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	セルフチェック集計表	・あいさつについては生活目標でも取り組んでいる。睡眠時間やメディアとの付き合い方については保健だより等で注意喚起をして、睡眠の大切さについて知らせることができた。	1+2 86.3%	B	・否定的な評価の児童には個別に生活の様子をききとったり助言をしたりし、その後意識して経過を見守っていく。	・先生方ができること、またできないことを整理して「ホトルーム」を運営し不登校対策に継続的に効果があるようにしていかなければならない。	
		イ	★	生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にすることを育成する。	生徒指導 (佐竹)	(A: 90%以上) ・授業や日常の児童の頑張りをクラスや学校全体に広めていき、価値付けをすることを継続し、自己肯定感が高まるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	学期末教員自己評価	・教員が、行事だけでなく、授業の中から児童が活躍できる場を意図的に取り入れるように改善を図っている。お便りを積極的に配信している。	1+2 100%	A	・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童にも保護者にも広めていけるようにしていく。	・多様な児童についての対応、対策が必要であるが、現在「学校には来ることができているが、教室には入れない」という児童はどれくらいいるのか。
				いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努める。事業に対しては全職員で情報共有を図るとともに、迅速にケース会議を開催し、組織的に対応する。長期的に不登校に対しては、保護者も交えてケース会議を実施し、一人一人に応じた支援を継続的に行う。	生徒指導 (佐竹)	(C: 70%以上) ・少人数だからこそできる全員への良いところを紹介する活動を続けていき、児童同士で友だちの良さを見つけて認める活動を行っている。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがあると回答する児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、体制及び運営について検討する。	学期末児童アンケート	・人権週間では、全校集会で養護教諭が人権について話をしたり、道徳担当が本の読み聞かせをしたりして、人権について考える機会を多く設けることができた。	1+2 80.0%	B	・安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿を伝え、広めていきたい。	・現在は、学校に来たが教室に入れないという児童はいない。ただ、学校に来れない児童や休みがちな児童はいるので、いろんな試みの一つとして4月から市全体で取り組む「ホトルーム」の設置を進めていきたい。
		ウ	★	特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。	生徒指導 (佐竹)	(A: 90%以上) ・教職員間の情報共有、管理職へ・連絡・相談・報告を徹底し、組織で対応できるようにしていく。指導の記録を残していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に、全校制で支援を行うとともに、いじめや問題行動の未然防止に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、体制及び運営について検討する。	学期末教員自己評価	・職員会議で月に1度、いじめや不登校児童についての情報交換を行うことができた。お便りでも、持ち帰りアンケートの結果などの情報を発信できた。	1+2 100%	A	・未然防止にさらに注力し、児童の困っていることなども発信して、保護者と学校とがさらに協力できるように情報を発信していきたい。	
エ		特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。	生徒指導 (佐竹)	(A: 90%以上) ・生徒指導の視点(自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安心・安全な居場所づくり)を生かすことを意識して、学習や生活、行事等に取り組んでいく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・安全安心な学校をキーワードに全職員で取り組めた。教師主導の授業スタイルから児童が活躍したり、グループで話し合ったりするスタイルへと移行しつつある。	1+2 100%	A	・個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていきたい。			
3	情操豊かな心の育成	ア	道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師 (山本)	(A: 90%以上) ・本校の重点目標である、「親切・思いやり」「希望と勇氣」を教師、児童が共有していく必要がある。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	学期末教員自己評価	・児童は自分の考えを活発に伝え合っている。	1+2 100%	A	・別業の内容を見なおし、重点目標について意識して指導できるようにしていく。	・「金津の森活用計画」の推進や金津の森の整備を行っていくことで、金津の森を活かした教育活動を発展させてほしい。	
			「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組む、豊かな感性を養う。	教務 (瀧田)	(A: 90%以上) ・学校コーディネーターと連携しながら地域の人材を活用したり、講師を招いたりして行っていく。ICTも活用しながら、他地域に金津の森の魅力発信していく活動を進めていく。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。	学期末教員自己評価	・後期も「金津の森活用計画」を推進していった。高学年の金津の森プロジェクトは下級生の目にも触れるので、いつかは自分たちもできるという期待感を高めていた。	1+2 100%	A	・「金津の森活用計画」を推進し、伝統となるものは伝統化していく。	・新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化していく。	
				講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、体験活動等の取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・今年も新たに金津の森を発信していく手立てを考え、計画を具体化していく。	1+2 100%	A	・「金津の森プロジェクト」や1時間の授業だけで完結してしまわずに、その経験から次の活動に結び付け、継続的に講師の方と連携して活動していく。			

4	健康と体力の向上	ア	「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」「のびのびタイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動 (山口智)	(A: 90%以上) ・体力の向上は見られたが、体を動かす遊びが固定化している傾向がある。いろいろな遊びや運動に親しむことができるようになる必要がある。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・教科体育や、体育行事に楽しみながら取り組ませることによって、児童の体力の向上を目指している。	1+2 100%	A	・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。	・改善計画通りお願いしたい。	
		イ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全 (田中)	(教員評価A: 90%以上) (児童・保護者アンケートA: 90%以上) ・生活習慣の向上と絡めて、目の健康についての保健指導を職員が連携して取り組むとともに、GIGAスクール推進と同時に、視力低下防止対策への継続した取組も必要である。	【満足度指標】 児童は、楽しく進んでいる A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	【努力指標】 視力をはじめ健康管理等の指導の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末児童アンケート 体力アップ1校1プラン実施状況	・学期に2回程度の風っ子タイムを通して、全児童が運動に親しむ機会を設けている。	1+2 100%	A		・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。
		イ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全 (田中)	(教員評価A: 90%以上) (児童・保護者アンケートA: 90%以上) ・生活習慣の向上と絡めて、目の健康についての保健指導を職員が連携して取り組むとともに、GIGAスクール推進と同時に、視力低下防止対策への継続した取組も必要である。	【成果指標】 児童には、健康的で規則正しい生活習慣が定着している。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末児童及び保護者アンケート	・姿勢ピカイチさん、おめめのめがみさまキャンペーン等昨年度からの取組を継続できた	・栄養教諭との連携、企業(ロッテ)の教育プログラムを利用して、食育、口腔の健康や姿勢等について考えることができた。	1+2 100%	A		・今後も継続していく。 ・給食時の姿勢等の声掛けも継続する。
5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭 (井上) 情報 (山口智)	(A: 90%以上) ・継続して、月に1枚以上の学校便り、学級便りを出す。ホームページ更新も定期的に行い、家庭に学校の情報や教育成果が伝わるようにしていく。コードモンを効果的に活用していくことで、より情報を素早く、正確に保護者に伝えることができるようにしていく。	【努力・満足度指標】 HPや学校たより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・1ヶ月に1回以上を基本に、学校便り、学年便り等をコードモンを利用して配信している。また、活動や行事等は写真や動画を入れながら随時ホームページで発信している。	1+2 100%	A	・コードモンでは、スマートフォンで見る保護者も多いと思われるため、スマートフォンでも見やすいように写真を多く入れたり、文字の大きさに配慮したりした便りを心掛けていく。	・改善計画通りお願いしたい。	
		イ	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭 (井上)	(A: 90%以上) ・継続して、月に1枚以上の学校便り、学級便りを出す。ホームページ更新も定期的に行い、家庭に学校の情報や教育成果が伝わるようにしていく。コードモンを効果的に活用していくことで、より情報を素早く、正確に保護者に伝えることができるようにしていく。	肯定的な評価をする保護者が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末保護者アンケート	・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。	1+2 98.4%	A	・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。			
6	多忙化改善と人材育成	ア	提案内容や会議の効率化を図るとともに、最終退校時刻の設定を行う。(毎週水曜日の定時退校の徹底)	教頭 (井上)	(A: 90%以上) ・定時退校日や最終退校時刻の意識化を図るとともに、業務の平準化を進める中で時間外勤務の時間を減らす。また、同僚性を高め、教職に対するやりがいを持つような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 各自が業務改善を意識しながら取組を進めている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	学期末教員自己評価	・4～11月の時間外勤務は、月1人あたり平均35.0時間(昨年度35.2時間)である。個人差が大きい傾向があり、業務の効率化をさらに進めていく必要がある。	1+2 90%	A	・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを高めるような職場づくりを目指していく。	・改善計画通りお願いしたい。	
		イ	PDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握により、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭 (井上)	(A: 90%以上) ・全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実に実行し、さらによりよいものにしていく。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、指導、改善を行う。	学期末教員自己評価	・学校経営方針に基づき、各担当がPDCAサイクルを意識しながら、責任を持って業務を進めている。	1+2 90%	A	・今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実に実行し、さらによりよいものにしていく。		